

またた

南十字星が瞬く

異国の地で、彼らは 何を見つけたのだろうか

国際感覚と広い視野を身につけ、次の時代を担う人材を育成することを目的として、「21世紀担い手人材育成事業」が今年度から始まりました。中学生の海外研修はその一環として行われるもので、今年は中学校2年生と3年生を対象に、8月10日から17日の期間でオーストラリアを訪問しました。

研修目的は大きく分けて二つです。一つはファームでのさまざまなアクティビティを通じて、楽しみながらオーストラリア文化に触れること。もう一つはホームステイを通じて、他国の人々とのコミュニケーションを図り、国際感覚を養うことです。モウブレイ・パークというファーム

では乗馬やカヌー、アーチェリーを楽しんだほか、羊飼いのティータイムを再現したビリーティーや牛の乳搾りにもチャレンジしました。

ホームステイでは、「文法を考えると、単語でもいいから声を出そう」を合い言葉に、ホストファミリーの方々と積極的に会話してくれたようです。また、ホームステイ中に近くのハイスクールを訪問しましたが、言葉や文化の違いを超えて、交流を深めていました。

オーストラリアに滞在したのはわずか6日間でしたが、海外研修でなければ得られない”何か“をみんなが持ち帰ったようです。





心が通じあえば大丈夫！

仙南中学校2年 高橋 昌子

『海外でたくさんの方のことを学び、吸収したい』という思いのもと、オーストラリアでは充実した日々を過ごせたと思います。

ホームステイ中は、大勢の方々と出会うことができました。ステイ先の方々はとても親切で、なにより家族の一員として接してくれたことがとても嬉しかったです。別れの時は自然と涙がこぼれ落ち、別れたくないという気持ちでいっぱいでした。

オーストラリアに行き、大勢の方々とふれあいを通じて感じたことは、『言葉の壁はあるものの、心が通じあえば大丈夫』ということです。日本にいては味わうことのできない一週間、本当に良い思い出になりました。

この経験を将来に生かしたい

千畑中学校3年 森元 裕太

オーストラリアに行くにあたって「自然に人一倍ふれること」「何事にも積極的に」という目標を立てました。

ファームでは早起きして日の出を見たり、友達と一緒に駆伝の練習もしました。冬の寒さに耐えて見た朝日は言葉にできないほど素晴らしいものでした。ホームステイでは、父親のクリスさんと積極的に会話し、歴史や政治についてたくさん教えていただき本当に勉強になりました。別れはとても悲しかったです。

今回の研修を振り返ったとき、まわりの方々のご協力があったから素晴らしい経験ができたんだと改めて思いました。そのことを忘れず、この貴重な経験を将来に生かしたいと思います。



心の柔らかい人間になろう

千畑中学校3年 後松久美子

オーストラリアの人々は、心がとても柔らかかったです。道ですれ違った人にも気さくに「ハロー」と声をかけてくれます。学校訪問の時も、すぐに打ち解けて友達になれました。こういったところは日本人とずいぶん違うと感じました。ステイ先のシャロンお母さんはとりわけ素敵な方で、いろいろなことを話してくれたし、良く私たちをほめてくれ、とても嬉しく思いました。私も、生まれた国や文化の違いで差別することなく、いろいろな人とコミュニケーションできる人間になりたいと思いました。

澄んだエメラルドグリーンの海が印象的だったオーストラリアへ、いつかまた行ってみたいと思います。

大好評！マツケンサンバⅡ

学校訪問の際に、みんなで何かを披露しようと考えたのが「マツケンサンバⅡ」。出発日の朝も練習したほど、みんな合いが入っていました。その甲斐があって、訪問先のピットウォーターハイスクールの生徒も一緒に踊ってくれ、大いに盛り上がりました。

また、O-ZONEの大ヒット曲「恋のマイアヒ」も好評でした。

